

(5) 小学校・中学校

1) 施設概要

① 施設一覧

本市には、小学校29校、中学校9校の合計38校が設置され、延床面積は18万8,739㎡となっています。施設規模をみると、小学校の延床面積は、名木小学校の2,119㎡(4学級)から成田小学校の8,605㎡(24学級)、中学校の延床面積は、久住中学校の3,944㎡(3学級)から西中学校の1万1,554㎡(24学級)となっています。

図表 施設一覧

(平成23年5月1日現在)

	地区	名称	所在地	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建築年	構造	体育館 構造	児童生徒 数(人)	学級数(学級)	
										通常 学級	特別 支援
小学校	ニュー タウン	1 向台小	中台3-6	25,720.00	4,929.00	昭和45	RC造	S造	297	11	2
		2 加良部小	加良部6-8	27,872.00	6,230.00	昭和48	RC造	S造	814	24	3
		3 橋賀台小	橋賀台3-4	31,670.00	4,487.00	昭和49	RC造	S造	278	12	2
		4 新山小	加良部4-23	26,727.00	4,726.00	昭和52	RC造	S造	299	12	2
		5 吾妻小	吾妻2-6	30,997.00	4,910.00	昭和53	RC造	S造	381	12	2
		6 玉造小	玉造3-4	28,519.00	4,800.00	昭和56	RC造	S造	313	12	2
		7 中台小	中台1-4	23,579.00	4,892.00	昭和57	RC造	S造	159	6	1
		8 神宮寺小	玉造5-28	27,979.00	5,023.00	昭和60	RC造	RC造	229	9	2
	成田	9 成田小	幸町948-1	23,248.00	8,605.00	昭和37	RC造	RC造	747	24	3
		10 美郷台小	美郷台2-19-1	30,000.00	6,906.00	平成19	RC造	RC造	361	12	2
	公津	11 公津小	台方851	19,030.00	4,210.00	昭和43	RC造	S造	173	7	2
		12 平成小	飯仲50-1	35,061.00	7,149.00	平成2	RC造	RC造	501	17	2
		13 公津の杜小	公津の杜3-2	30,000.00	7,411.00	平成17	RC造	RC造	635	20	1
	遠山	14 遠山小	小菅1411	29,972.00	3,275.00	昭和46	RC造	RC造	69	6	1
		15 三里塚小	本三里塚153-1	30,643.00	5,376.00	昭和46	RC造	RC造	389	13	3
		16 東小	十余三27-3	13,601.00	2,820.00	昭和47	RC造	RC造	21	5	0
		17 本城小	本城178-1	26,540.00	6,330.00	平成5	RC造	RC造	266	11	3
		18 久住小	久住中央3-12-1	28,001.00	2,702.00	昭和47	RC造	RC造	205	7	1
	豊住	19 豊住小	北羽鳥1985-2	26,115.00	2,844.00	昭和52	RC造	RC造	62	6	0
		20 八生小	松崎1468	16,428.00	3,185.00	昭和44	RC造	S造	78	6	1
	下総	21 滑河小	滑川1142	15,057.00	2,341.00	昭和49	RC造	RC造	64	6	1
		22 小御門小	名古屋1199	16,709.00	2,674.00	昭和52	RC造	RC造	127	6	2
		23 名木小	名木1050	12,316.00	2,119.00	昭和57	RC造	RC造	28	4	1
		24 高岡小	大和田151	8,194.00	2,454.00	昭和39	RC造	RC造	64	6	0
	大栄	25 大須賀小	伊能547	18,840.00	2,773.00	昭和49	RC造	S造	85	6	0
		26 桜田小	桜田941	6,712.00	3,363.00	昭和60	RC造	RC造	118	6	2
		27 前林小	前林430	8,808.00	2,971.00	昭和52	RC造	RC造	76	6	1
		28 津富浦小	津富浦1093	9,407.00	2,907.00	昭和53	RC造	S造	128	6	1
		29 川上小	多良貝245-308	14,751.00	3,103.00	昭和50	RC造	RC造	154	6	2
小学校 計				642,496.00	125,515.00				7,121	284	45
中学校	タニ ウー ン	1 西中	加良部5-11	53,680.00	11,554.00	平成12	RC造	RC造	841	24	5
		2 中台中	中台4-2	35,440.00	6,459.00	昭和47	RC造	S造	510	16	0
		3 吾妻中	吾妻1-24	37,282.00	5,837.00	昭和53	RC造	S造	236	8	2
		4 玉造中	玉造3-7	34,932.00	7,265.00	昭和60	RC造	RC造	202	6	2
	成田	5 成田中	土屋928-1	40,703.00	7,305.00	昭和59	RC造	RC造	488	15	3
	遠山	6 遠山中	大清水19	29,681.00	7,098.00	昭和46	RC造	RC造	343	11	2
	久住	7 久住中	久住中央2-1	31,381.00	3,944.00	平成19	RC造	RC造	70	3	1
	下総	8 下総中	名古屋1214	39,813.00	5,253.00	昭和51	RC造	RC造	176	6	1
	大栄	9 大栄中	伊能125	57,807.00	8,149.00	昭和58	RC造	S造	317	10	2
中学校 計				360,719.00	62,864.00				3,183	99	18
合計(38校)				1,003,215.00	188,379.00				10,304	383	63

延床面積
4,000
㎡未満・児童数
200
人以下

延床面積 4,000 ㎡未満の学校

児童生徒数 200 人以下の学校

出典：成田市施設データ

② 配置状況

本市 10 地区の小学校は、小学校が配置されていない中郷地区を除き、ニュータウン地区に 8 校、その他の 8 地区は地区ごとに 1 から 5 校配置されています。

中学校は、中学校が配置されていない中郷・公津・八生・豊住地区を除き、ニュータウン地区に 4 校、その他の 5 地区には、1 校ずつ配置されており、小中学校ともにニュータウン地区に集中しています。

図表 学校位置図



2) 実態把握

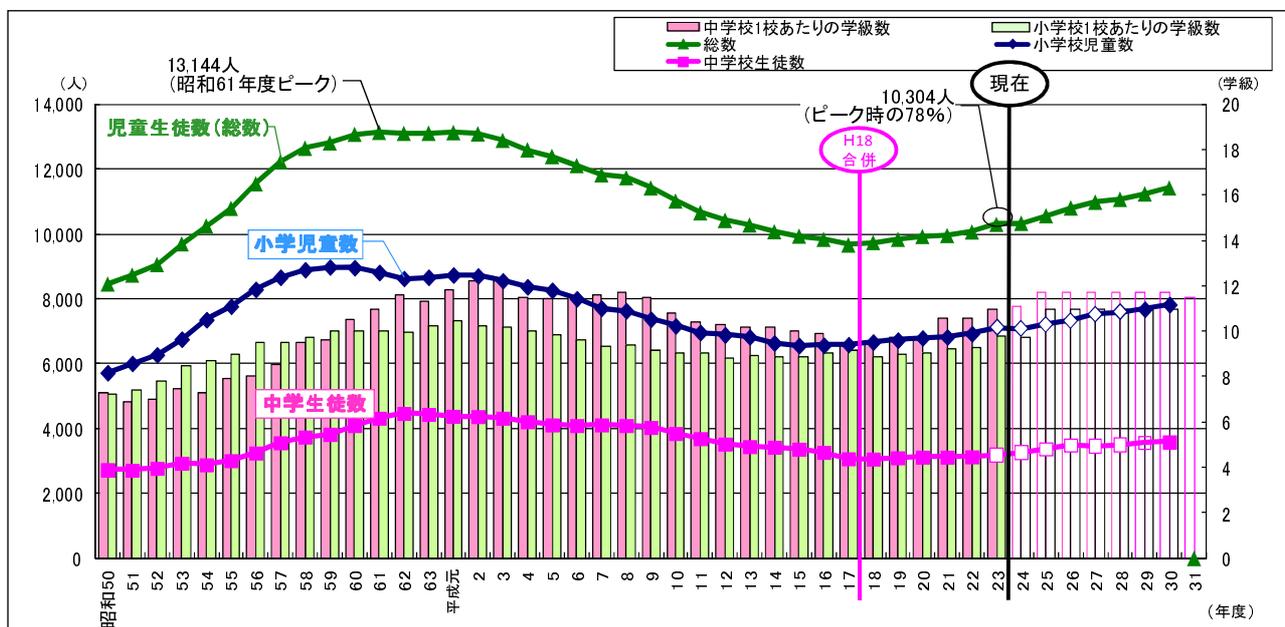
① 児童生徒数及び学級数の状況

児童生徒数及び学級数の状況を見ると、小中学校の児童生徒数は、昭和61年度の1万3,144人をピークに平成17年度まで減少傾向にありました。平成18年度を境に増加に転じ、平成23年5月1日時点では、1万304人とピーク時の約78%となっています。今後も児童生徒数は、増加が見込まれています。

1校当たりの通常学級数をみると、昭和61年度で小学校10学級、中学校11学級であったのに対し、平成23年度では、小学校約10学級、中学校11学級と、児童生徒数の減少の割合に比べ、大きな変化はありません。

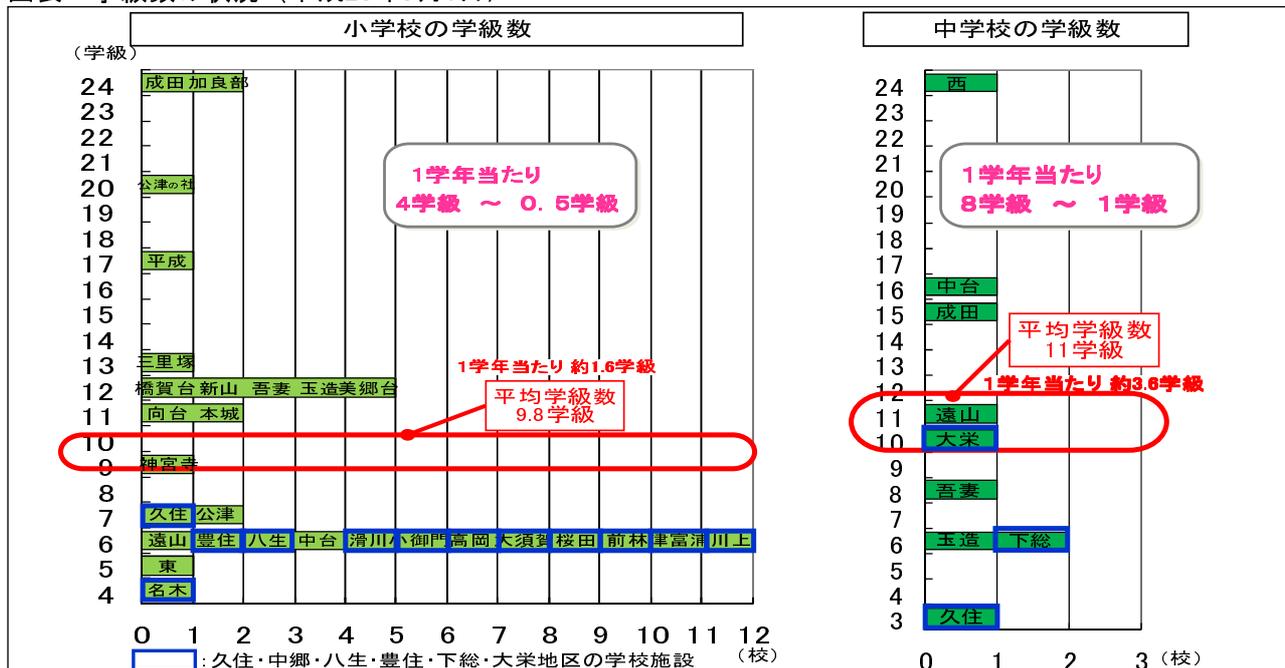
ただし、平成23年度学校別通常学級数では、11学級以下の学校が、小学校で19校(約66%)、中学校で6校(約66%)となっており、児童生徒数の少ない学校の割合が多いことがわかります。

図表 児童生徒数の推移



図表 学級数の状況 (平成23年5月1日)

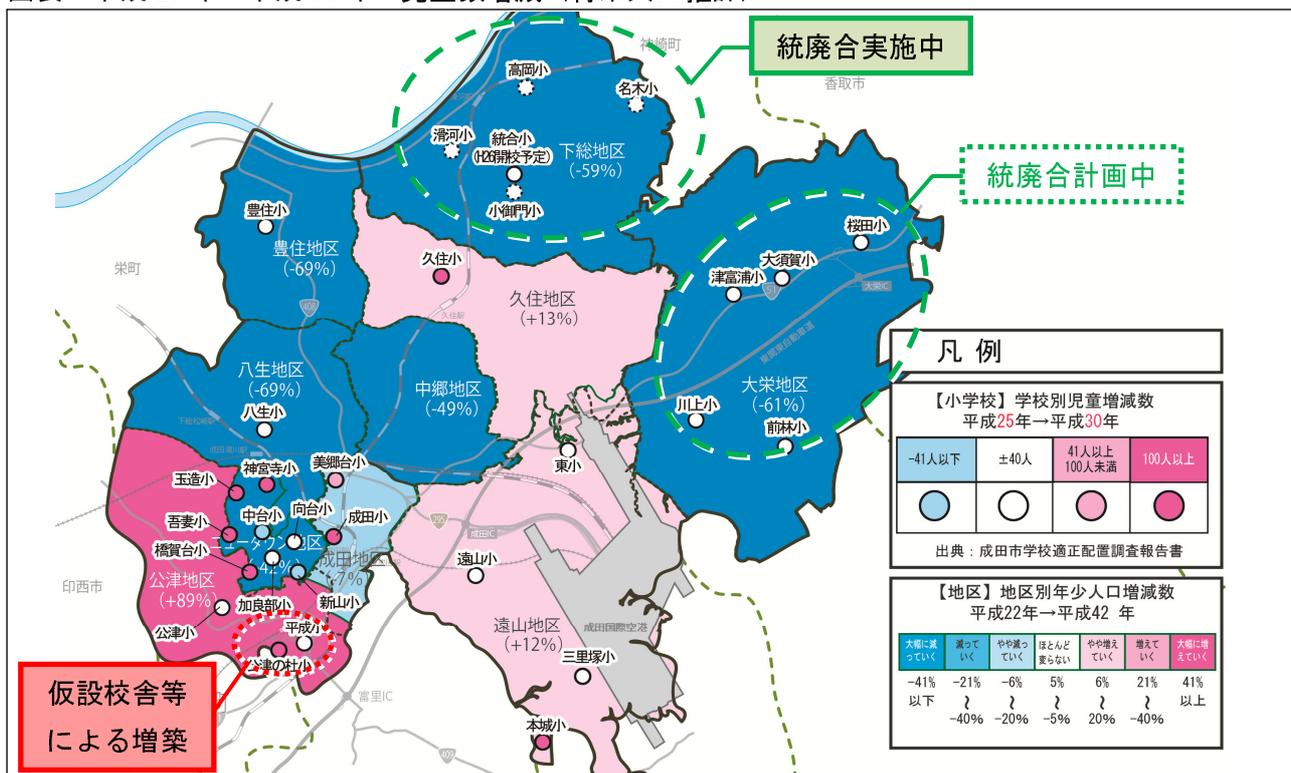
※学級数には特別支援学級を含まない。



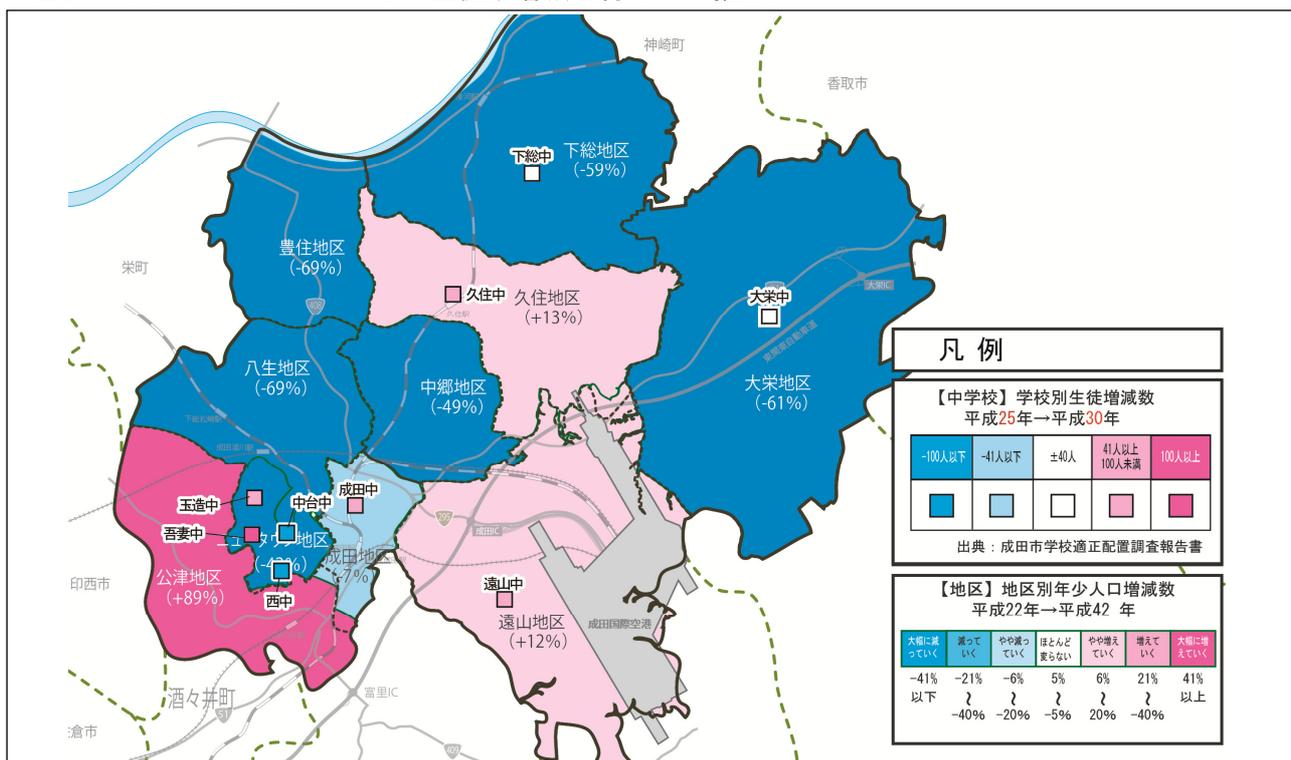
■ 地区別別児童生徒数将来推計

平成24年から平成44年の地区別年少人口の変化をみると、約69%と大幅な減少が予測されている八生・豊住地区をはじめ、下総・大栄・中郷・ニュータウン地区が、約40%以上の減少が予測されています。また約89%と大幅な増加が予測される公津地区、次いで約13%の増加が予測される地区が久住地区となっていますが、学校別の児童生徒数の増減率は、同一地域内や隣接学校であっても、学校によって様々となっています。

図表 平成25年ー平成30年 児童数増減（将来人口推計）



図表 平成25年ー平成30年 生徒数増減（将来人口推計）



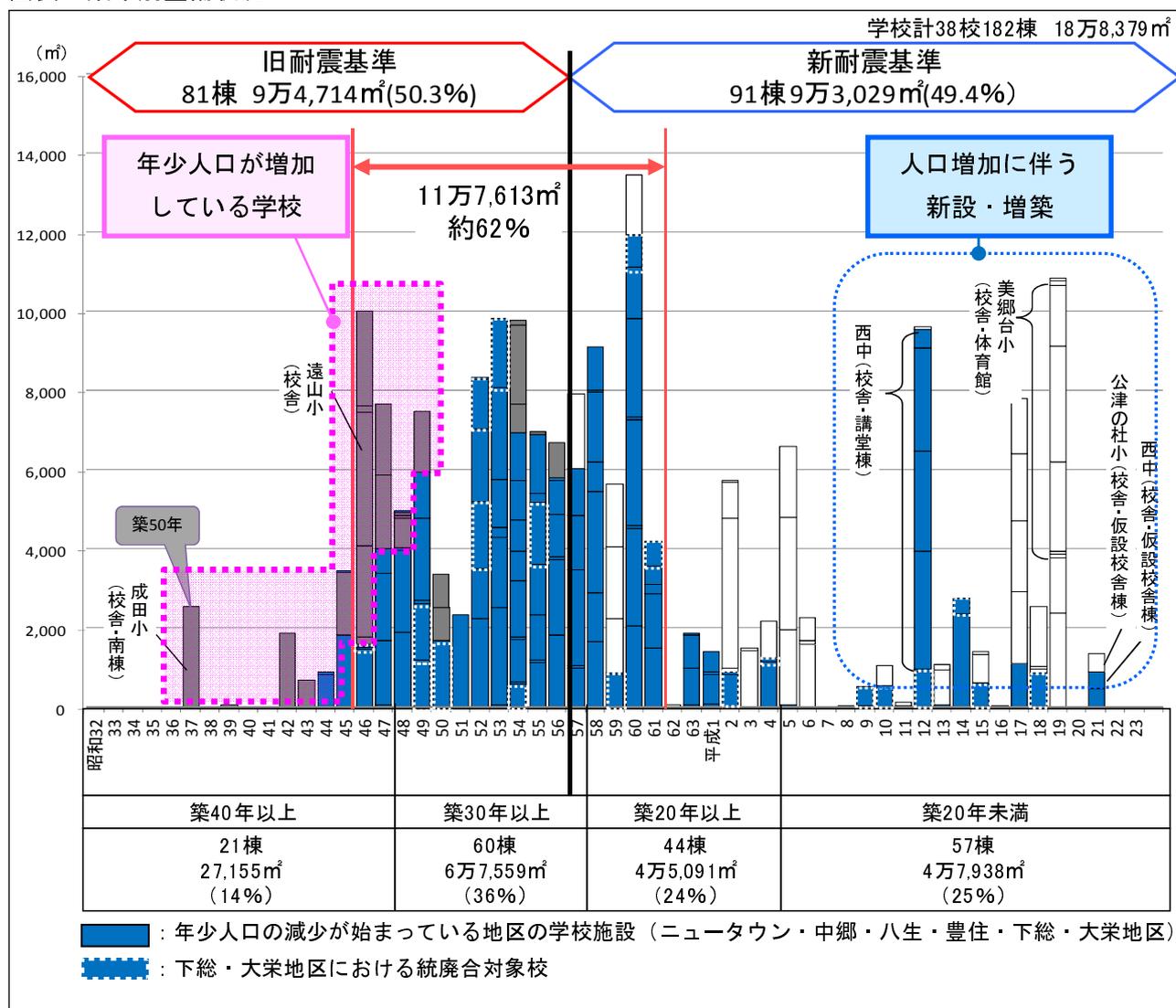
② 施設の整備状況及び耐震状況

小学校・中学校には、校舎や体育館以外にも、プール附属棟や屋外トイレなど、様々な施設があります。それら施設を含めると、合計 182 棟 18 万 8,379 m²の施設が小中学校にあります。

施設の整備状況は、昭和 46 年から昭和 61 年の約 15 年間に、全体の約 62%の施設が建設されており、直近では、平成 16 から 21 年度にかけて、公津の杜小・美郷台小・久住中の建設及び加良部小、公津の杜小仮設校舎棟の増築等を実施しました。

また、施設の耐震状況では、昭和 56 年以前に建設された旧耐震基準の建物が 81 棟 9 万 4,714 m² (約 50%)、新耐震基準の建物が 91 棟 9 万 3,029 m² (約 49%) となっています。そのため、市では、旧耐震基準の建物 (校舎や体育館) の耐震二次診断を実施し、その結果に基づき耐震補強工事を進め、平成 23 年度末の耐震化率は、すべての学校施設で耐震化が完了しています。

図表 築年別整備状況



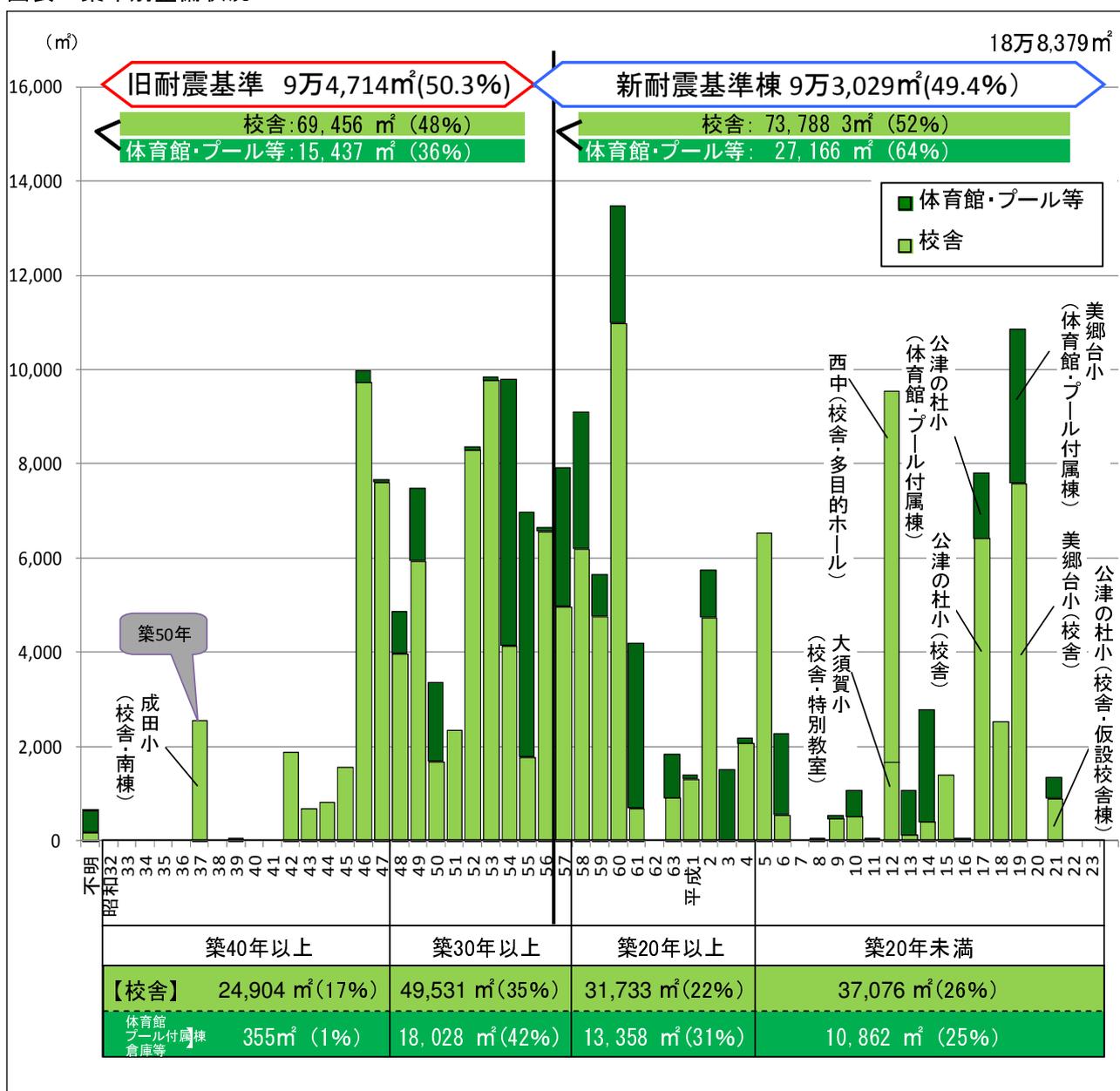
出典：成田市施設データ

<校舎・体育館別>

普通教室棟や特別教室棟などの校舎と体育館（屋内運動場）・プール附属棟・倉庫等の2区分で築年別整備状況を整理すると、校舎では校舎全体の約48%、体育館・プール附属棟・倉庫等は全体の約36%が旧耐震基準（昭和56年以前）の建物となっています。

築年別では、校舎は改修時期を迎えている築30年以上の施設が約52%となっており、校舎全体の過半を占め、いずれも老朽化が進行していることが分かります。また、築20年未満の校舎は、全体の約25%となっており、ここ20年で本市全体の校舎の4分の1が建設されたことが分かります。

図表 築年別整備状況



出典：成田市施設データ

■ 小学校の建物総合評価結果

平成23年度の小学校29校の建物状況について評価を行いました。

年度	平成23	基本情報		①耐震化	②老朽化			③バリアフリー対応					④環境対応			⑤維持管理						
		建築年	延床面積(m ²)	耐震改修	築年数	直近の大規模改修	規模改修後または直近の大規模改修年数	エレベーター※1	障がい者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	太陽光発電の導入	自然エネルギー	屋上・壁面緑化等	環境対応設備※2	維持管理費(千円)			床面積当たり(円/m ²)	
No.	施設名																光熱水費	建物管理委託費	各所修繕費	光熱水費	建物管理委託費	各所修繕費
1	成田小	昭和37	8,605	○	49	平成2	21	○	×	×	×	○	○	×	×	×	11,279	2,147	1,067	1,311	250	124
2	遠山小	昭和46	3,275	○	40	平成11	12	○	×	○	×	○	○	×	×	×	3,604	2,184	1,007	1,100	667	307
3	三里塚小※	昭和46	5,376	○	40	平成6	17	×	○	○	×	○	×	×	×	×	7,149	2,618	131	1,330	487	24
4	東小	昭和47	2,820	○	39	—	39	×	×	×	×	○	×	×	×	×	2,406	1,937	471	853	687	167
5	久住小	昭和47	2,702	○	39	平成23	0	○	×	×	×	○	×	×	○		5,621	1,017	360	2,080	376	133
6	豊住小	昭和52	2,844	—	34	—	34	×	×	×	×	○	×	×	○		3,365	2,086	310	1,183	733	109
7	八生小※	昭和44	3,185	○	42	平成7	16	×	○	○	×	○	×	×	○		2,010	1,442	530	631	453	166
8	公津小※	昭和43	4,210	○	43	平成8	15	○	×	○	×	○	×	×	×		4,146	1,623	1,086	985	386	258
9	向台小	昭和45	4,929	○	41	平成4	19	×	×	×	×	○	×	×	×		4,729	1,481	383	959	300	78
10	加良部小	昭和48	6,230	○	38	平成7	16	○	○	○	×	○	×	×	×		7,062	2,836	1,465	1,134	455	235
11	橋賀台小	昭和49	4,487	○	37	—	37	×	×	×	×	×	×	×	×		3,769	1,513	335	840	337	75
12	新山小	昭和52	4,726	○	34	—	34	×	×	×	×	×	×	×	×		4,757	1,513	302	1,007	320	64
13	吾妻小	昭和53	4,910	○	33	—	33	×	○	○	×	○	×	×	×		4,769	1,612	1,011	971	328	206
14	玉造小	昭和56	4,800	○	30	—	30	×	○	○	×	○	×	×	×		3,983	1,585	1,265	830	330	264
15	中台小	昭和57	4,892	—	29	—	29	×	○	○	×	○	×	×	×		3,112	1,771	1,323	636	362	270
16	神宮寺小	昭和60	5,023	—	26	—	26	×	○	×	×	○	×	×	×		3,662	1,455	1,693	729	290	337
17	平成小	平成2	7,149	—	21	—	21	×	×	○	×	○	×	×	×		7,316	1,818	730	1,023	254	102
18	本城小	平成5	6,330	—	18	—	18	×	×	○	×	○	×	×	×		7,941	3,141	592	1,254	496	94
19	滑河小	昭和49	2,341	○	37	—	37	×	×	×	×	○	×	×	×		3,008	1,468	1,137	1,285	627	486
20	小御門小	昭和52	2,674	—	34	—	34	×	×	×	×	○	×	×	×		2,785	1,300	406	1,041	486	152
21	名木小	昭和57	2,119	—	29	—	29	×	×	×	×	×	×	×	×		1,737	1,356	755	820	640	356
22	高岡小	昭和55	2,454	○	31	—	31	×	×	○	×	○	×	×	×		2,651	1,816	734	1,080	740	299
23	大須賀小	昭和49	2,773	○	37	—	37	×	×	×	×	○	×	×	×		2,720	1,312	448	981	473	162
24	桜田小	昭和60	3,363	—	26	—	26	×	○	○	×	○	×	×	○		2,605	1,840	443	775	547	132
25	前林小	昭和52	2,971	○	34	—	34	×	○	○	×	○	×	×	×		2,500	1,368	1,234	841	460	415
26	津富浦小	昭和53	2,907	○	33	—	33	×	×	×	×	○	×	×	×		3,137	1,935	694	1,079	666	239
27	川上小	昭和50	3,103	○	36	平成14	9	×	×	×	×	○	×	×	○		4,018	1,702	160	1,295	548	52
28	公津の杜小	平成17	7,411	—	6	—	6	○	○	○	×	○	○	×	○		7,069	2,274	136	954	307	18
29	美郷台小	平成19	6,906	—	4	—	4	○	○	○	×	○	○	×	○		5,984	2,265	157	867	328	23
合計・平均			125,515														128,894	52,414	20,365	1,027	418	162

※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等
 ※2 節水型便器、高効率照明器具・LED照明、雨水・中水設備

記載例 実施済み=○
 未実施 = ×
 不要 ⇒ —

床面積当たり(円/m²)の平均値
 (床面積当たり(円/m²)の平均値=それぞれの費用の合計/延床面積の合計) : 平均値の1.4倍

※ 大規模改修を主な棟で行っていますが、まだ未施工の棟が残っている施設

東小学校など12校は、耐震安全性は確保されていますが、老朽化がかなり進行しており、建替え又は大規模改修等の老朽化対策が早急に必要な施設となっています。(パターン②)

成田小学校は、大規模改修が終了しており、その他の5校は、いずれも新耐震基準の建物ですが、今後、老朽化対策の検討が必要な施設となっています。(パターン③)

平成11年度以降に大規模改修を実施した旧耐震基準である遠山小学校をはじめとする8校と、比較的新しい施設の本城・公津の杜・美郷台小学校は、バリアフリー対応及び環境対応が一部完了していないため、計画的な改修等での対応が望まれます。(パターン④)

また、床面積(1㎡)当たりの維持管理費について、小学校29校の平均値から4割以上高くなっている施設が、14校あります。これらの施設については、保有設備の老朽化や施設の整備状況に起因していることが想定されますので、今後、検証が必要になります。

	パターン② 老朽化	パターン③ 今後 老朽化	パターン④ バリアフリー・環境対応																																																																
評価	<p>・老朽化が進行している ⇒建替え又は大規模改修などの老朽化対策の検討が必要な施設</p>	<p>・老朽化が進行している ⇒今後、老朽化対策の検討が必要な施設</p>	<p>・バリアフリー、環境対応が未完了 ⇒今後、バリアフリーや環境対応が完了していない部分の整備が望まれる施設</p>																																																																
該当施設	<table border="1"> <thead> <tr> <th>該当施設</th> <th>建築年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東小</td><td>昭和47</td></tr> <tr><td>豊住小</td><td>昭和52</td></tr> <tr><td>橋賀台小</td><td>昭和49</td></tr> <tr><td>新山小</td><td>昭和52</td></tr> <tr><td>吾妻小</td><td>昭和53</td></tr> <tr><td>玉造小</td><td>昭和56</td></tr> <tr><td>滑河小</td><td>昭和49</td></tr> <tr><td>小御門小</td><td>昭和52</td></tr> <tr><td>高岡小</td><td>昭和55</td></tr> <tr><td>大須賀小</td><td>昭和49</td></tr> <tr><td>前林小</td><td>昭和52</td></tr> <tr><td>津富浦小</td><td>昭和53</td></tr> </tbody> </table> <p>< 12 施設 ></p>	該当施設	建築年	東小	昭和47	豊住小	昭和52	橋賀台小	昭和49	新山小	昭和52	吾妻小	昭和53	玉造小	昭和56	滑河小	昭和49	小御門小	昭和52	高岡小	昭和55	大須賀小	昭和49	前林小	昭和52	津富浦小	昭和53	<table border="1"> <thead> <tr> <th>該当施設</th> <th>建築年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>成田小</td><td>昭和37</td></tr> <tr><td>中台小</td><td>昭和57</td></tr> <tr><td>神宮寺小</td><td>昭和60</td></tr> <tr><td>平成小</td><td>平成2</td></tr> <tr><td>名木小</td><td>昭和57</td></tr> <tr><td>桜田小</td><td>昭和60</td></tr> </tbody> </table> <p>< 6 施設 ></p>	該当施設	建築年	成田小	昭和37	中台小	昭和57	神宮寺小	昭和60	平成小	平成2	名木小	昭和57	桜田小	昭和60	<table border="1"> <thead> <tr> <th>該当施設</th> <th>建築年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>遠山小</td><td>昭和46</td></tr> <tr><td>三里塚小</td><td>昭和46</td></tr> <tr><td>久住小</td><td>昭和47</td></tr> <tr><td>八生小</td><td>昭和44</td></tr> <tr><td>公津小</td><td>昭和43</td></tr> <tr><td>向台小</td><td>昭和45</td></tr> <tr><td>加良部小</td><td>昭和48</td></tr> <tr><td>本城小</td><td>平成5</td></tr> <tr><td>川上小</td><td>昭和50</td></tr> <tr><td>公津の杜小</td><td>平成17</td></tr> <tr><td>美郷台小</td><td>平成19</td></tr> </tbody> </table> <p>< 11 施設 ></p>	該当施設	建築年	遠山小	昭和46	三里塚小	昭和46	久住小	昭和47	八生小	昭和44	公津小	昭和43	向台小	昭和45	加良部小	昭和48	本城小	平成5	川上小	昭和50	公津の杜小	平成17	美郷台小	平成19
該当施設	建築年																																																																		
東小	昭和47																																																																		
豊住小	昭和52																																																																		
橋賀台小	昭和49																																																																		
新山小	昭和52																																																																		
吾妻小	昭和53																																																																		
玉造小	昭和56																																																																		
滑河小	昭和49																																																																		
小御門小	昭和52																																																																		
高岡小	昭和55																																																																		
大須賀小	昭和49																																																																		
前林小	昭和52																																																																		
津富浦小	昭和53																																																																		
該当施設	建築年																																																																		
成田小	昭和37																																																																		
中台小	昭和57																																																																		
神宮寺小	昭和60																																																																		
平成小	平成2																																																																		
名木小	昭和57																																																																		
桜田小	昭和60																																																																		
該当施設	建築年																																																																		
遠山小	昭和46																																																																		
三里塚小	昭和46																																																																		
久住小	昭和47																																																																		
八生小	昭和44																																																																		
公津小	昭和43																																																																		
向台小	昭和45																																																																		
加良部小	昭和48																																																																		
本城小	平成5																																																																		
川上小	昭和50																																																																		
公津の杜小	平成17																																																																		
美郷台小	平成19																																																																		
コメント	<p>・いずれも耐震改修工事は完了しているものの、築30年以上と老朽化がかなり進行しており、大規模改修工事などの早急な対応が必要です。</p>	<p>・いずれも新耐震基準か大規模修繕が終了した建物ですが、築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。</p>	<p>・いずれも比較的新しい施設もしくは大規模改修が完了している施設ですが、バリアフリーや環境対応が完了していないため、計画的な改修や効率のよい設備の導入などの対応が望まれます。</p>																																																																

維持管理費が割高な施設	<p>・右記の施設は、維持管理費が用途内の平均値から1.4倍以上となっています。保有設備や整備状況が要因となっている可能性が考えられますので、以下のような点について検証が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各所の老朽化により、修繕頻度が高くなっている ・古く効率の低い設備が使用され続けている ・利用していない施設や設備に多額の管理費がかかっている 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>該当施設</th> <th>建築年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>遠山小</td><td>昭和46</td></tr> <tr><td>東小</td><td>昭和47</td></tr> <tr><td>久住小</td><td>昭和47</td></tr> <tr><td>豊住小</td><td>昭和52</td></tr> <tr><td>公津小</td><td>昭和43</td></tr> <tr><td>加良部小</td><td>昭和48</td></tr> <tr><td>玉造小</td><td>昭和56</td></tr> <tr><td>中台小</td><td>昭和57</td></tr> <tr><td>神宮寺小</td><td>昭和60</td></tr> <tr><td>滑河小</td><td>昭和49</td></tr> <tr><td>名木小</td><td>昭和57</td></tr> <tr><td>高岡小</td><td>昭和55</td></tr> <tr><td>前林小</td><td>昭和52</td></tr> <tr><td>津富浦小</td><td>昭和53</td></tr> </tbody> </table> <p>< 14 施設 ></p>	該当施設	建築年	遠山小	昭和46	東小	昭和47	久住小	昭和47	豊住小	昭和52	公津小	昭和43	加良部小	昭和48	玉造小	昭和56	中台小	昭和57	神宮寺小	昭和60	滑河小	昭和49	名木小	昭和57	高岡小	昭和55	前林小	昭和52	津富浦小	昭和53
	該当施設	建築年																														
遠山小	昭和46																															
東小	昭和47																															
久住小	昭和47																															
豊住小	昭和52																															
公津小	昭和43																															
加良部小	昭和48																															
玉造小	昭和56																															
中台小	昭和57																															
神宮寺小	昭和60																															
滑河小	昭和49																															
名木小	昭和57																															
高岡小	昭和55																															
前林小	昭和52																															
津富浦小	昭和53																															

■ 中学校の建物総合評価結果

平成23年度の中学校9校の建物状況について評価を行いました。

年度	平成23	基本情報		①耐震化	②老朽化			③バリアフリー対応					④環境対応		⑤維持管理								
		建築年	延床面積 (㎡)	耐震改修	築年数	直近の大規模改修	規模改修後または直近の大規模改修年数	エレベーター※1	障がい者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	太陽光発電の導入	自然エネルギー	屋上・壁面緑化等	環境対応設備※2	維持管理費(千円)	床面積当たり(円/㎡)	光熱水費	建物管理委託費	各所修繕費	光熱水費
30	成田中	昭和59	7,305	—	27	—	27	○	○	○	×	×	×	×	×	×	11,533	2,104	2,114	1,579	288	289	
31	遠山中	昭和46	7,098	○	40	平成5	18	×	○	○	×	○	×	×	×	×	9,661	4,196	740	1,361	591	104	
32	久住中	平成19	3,944	—	4	—	4	○	○	○	×	○	○	×	○	○	5,176	2,126	93	1,312	539	24	
33	西中	平成12	11,554	—	11	—	11	○	○	○	×	○	○	×	○	○	11,174	2,812	991	967	243	86	
34	中台中	昭和47	6,459	○	39	平成8	15	×	×	×	×	×	×	×	×	×	6,649	3,099	939	1,029	480	145	
35	吾妻中	昭和53	5,837	○	33	—	33	×	×	×	×	○	×	×	×	×	4,813	2,045	1,348	825	350	231	
36	玉造中	昭和60	7,265	—	26	—	26	×	○	○	×	○	×	×	×	×	5,262	1,887	1,846	724	260	254	
37	下総中※	昭和51	5,253	○	35	平成21	2	×	○	○	×	○	○	×	○	○	4,976	2,447	810	947	466	154	
38	大栄中	昭和58	8,149	—	28	—	28	×	○	×	×	○	×	×	○	○	6,811	4,554	2,304	836	559	283	
合計・平均			62,864														66,055	25,270	11,186	1,051	402	178	

※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等
 ※2 節水型便器・高効率照明器具・LED照明・雨水・中水設備
 記載例 実施済み=○
 未実施=×
 不要=—
 床面積当たり(円/㎡)の平均値 (床面積当たり(円/㎡)の平均値=それぞれの費用の合計/延床面積の合計) 平均値の1.4倍

※ 大規模改修を主な棟で行っていますが、まだ未施工の棟が残っている施設

吾妻中学校は、耐震安全性は確保されていますが、老朽化がかなり進行しており、建替え又は大規模改修等の老朽化対策が早急に必要の施設となっています。(パターン②)

成田・玉造・大栄中学校は、いずれも新耐震基準の建物ですが、今後、老朽化対策の検討が必要な施設となっています。(パターン③)

遠山・中台・下総中学校3校は、大規模改修を実施しており、久住・西中学校は、比較的新しい施設ですが、バリアフリー対応及び環境対応が一部完了していないため、計画的な改修等での対応が望めます。(パターン④)

また、維持管理費が割高な施設が、4校あります。これらの施設については、保有設備の老朽化や施設の整備状況に起因していることが想定されますので、今後、検証が必要になります。

パターン② 老朽化	パターン③ 今後老朽化	パターン④ バリアフリー・環境対応	維持管理費が割高な施設										
<p>・老朽化が進行している ⇒建替え又は大規模改修などの老朽化対策の検討が必要な施設</p> <p>①耐震安全性 3 ②老朽化状況 2 ③維持管理 1 ④バリアフリー対応状況 1 ⑤環境対応状況 1</p> <p>※区分基準: パターン①以外で②=1の施設</p>	<p>・老朽化が進行している ⇒今後、老朽化対策の検討が必要な施設</p> <p>①耐震安全性 3 ②老朽化状況 2 ③維持管理 1 ④バリアフリー対応状況 1 ⑤環境対応状況 1</p> <p>※区分基準: パターン①以外で②=2の施設</p>	<p>・バリアフリー、環境対応が未完了 ⇒今後、バリアフリーや環境対応が完了していない部分の整備が望まれる施設</p> <p>①耐震安全性 3 ②老朽化状況 2 ③維持管理 1 ④バリアフリー対応状況 2 ⑤環境対応状況 2</p> <p>※区分基準: パターン①~④以外で③又は④が1~2の施設</p>	<p>・下記の施設は、維持管理費が用途内の平均値から1.4倍以上となっています。保有設備や整備状況が要因となっている可能性が考えられますので、以下のような点について検証が必要です。</p> <p>・各所の老朽化により、修繕頻度が高くなっている ・古く効率の低い設備が使用され続けている ・利用していない施設や設備に多額の管理費がかかっている</p> <table border="1"> <tr> <th>該当施設</th> <th>建築年</th> </tr> <tr> <td>成田中</td> <td>昭和59</td> </tr> <tr> <td>遠山中</td> <td>昭和46</td> </tr> <tr> <td>玉造中</td> <td>昭和60</td> </tr> <tr> <td>大栄中</td> <td>昭和58</td> </tr> </table> <p><4施設></p>	該当施設	建築年	成田中	昭和59	遠山中	昭和46	玉造中	昭和60	大栄中	昭和58
該当施設	建築年												
成田中	昭和59												
遠山中	昭和46												
玉造中	昭和60												
大栄中	昭和58												
<p>該当施設 建築年 昭和53 吾妻中</p> <p><1施設></p>	<p>該当施設 建築年 昭和59 昭和60 昭和58 成田中 玉造中 大栄中</p> <p><3施設></p>	<p>該当施設 建築年 昭和46 平成19 平成12 昭和47 昭和51 遠山中 久住中 西中 中台中 下総中</p> <p><5施設></p>											
<p>コメント ・吾妻中は耐震改修工事は完了しているものの、築30年以上と老朽化がかなり進行しており、大規模改修工事などの早急な対応が必要です。</p>	<p>・いずれも新耐震基準の建物ですが、築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。</p>	<p>・いずれも比較的新しい施設もしくは大規模改修が完了している施設ですが、バリアフリーや環境対応が完了していないため、計画的な改修や効率のよい設備の導入などの対応が望めます。</p>											

■ スペース構成

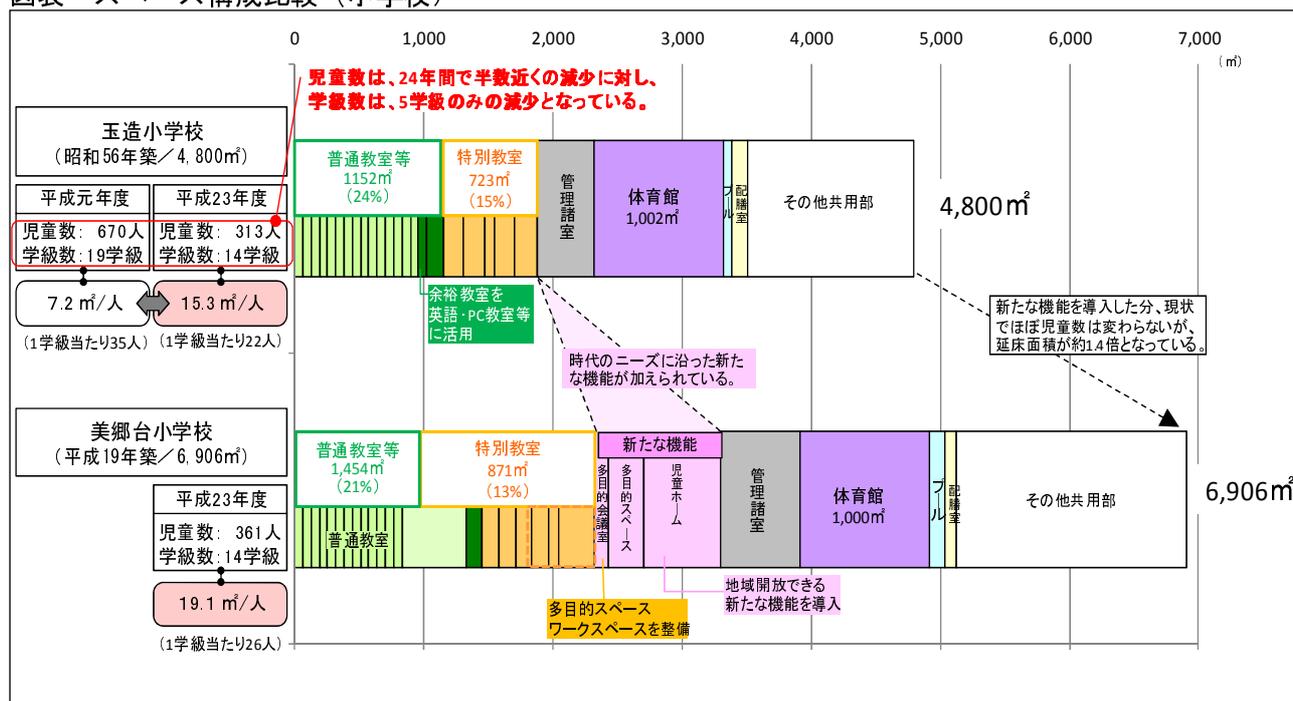
近年に建設した学校のスペース構成は、総合的な学習形態に対応するため、昭和30年代から50年代に整備された学校施設と比べると大きく変化しています。

例えば、小学校では、昭和56年建築の玉造小学校とほぼ同じ児童数の平成18年に新設された美郷台小学校を比較すると、美郷台小学校では、全ての普通教室に隣接して廊下とゆるやかな境界を持ったワークスペースを整備しているほか、地域開放できる多目的会議室を併設するなど、機能の充実を図っていることが分かります。

一方、玉造小学校では、24年前と比べ児童数は約47%減少しているにも関わらず、学級数では5学級の減少にとどまり、一部の余裕教室については英語教室や少人数学習等に活用するなど、校舎の有効活用を図っています。

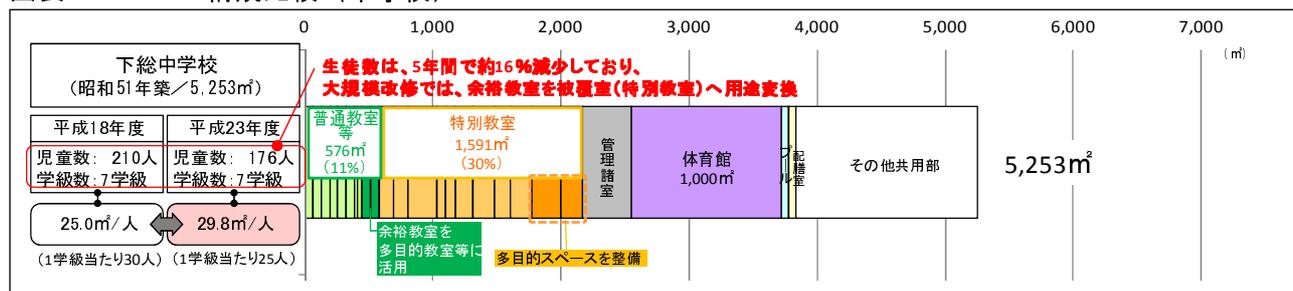
中学校では、平成24年度に大規模改修が終了した昭和51年建築の下総中学校を例にみると、生徒数の減少に伴い、普通教室だったところを特別教室に転用するなどして活用しています。同時に経年による建物の機能劣化に対する復旧措置・長寿命化を図ると同時に環境に配慮した省エネ化を行っています。

図表 スペース構成比較（小学校）



(資料: 学校施設台帳)

図表 スペース構成比較（中学校）



(資料: 学校施設台帳)

③ 学校開放等の状況

本市では、学校開放事業として、小中学校の校庭と体育館、プール等を学校教育に支障のない範囲で、スポーツ活動を行う市民の団体等に開放しています。

また、その他のスペースの開放として、成田小学校・神宮寺小学校・西中学校・大栄中学校ではミーティングルームや武道場等の開放を行っています。

図表 学校開放施設一覧

(資料：生涯スポーツ課)

地区	名称	学校開放状況			その他	備考	
		運動場	体育館	プール			
ニュータウン	1 向台小学校	●	●	—			
	2 加良部小学校	●	●	—			
	3 橋賀台小学校	●	●	—			
	4 新山小学校	●	●	—			
	5 吾妻小学校	●	●	—			
	6 玉造小学校	●	●	—			
	7 中学校台小学校	●	●	—			
	8 神宮寺小学校	●	●	—	○	ミーティングルーム	
成田	9 成田小学校	●	●	—	○	小アリーナ	
	10 美郷台小学校	●	●	—			
公津	11 公津小学校	●	●	—			
	12 平成小学校	●	●	—			
	13 公津の杜小学校	●	●	—			
遠山	14 遠山小学校	●	●	—			
	15 三里塚小学校	●	●	—			
	16 東小学校	●	●	—			
	17 本城小学校	●	●	●		プール開放期間：7/28	
久住	18 久住小学校	●	●	—			
豊住	19 豊住小学校	●	●	●		プール開放期間：7/21	
八生	20 八生小学校	●	●	—			
	21 滑河小学校	●	●	—			
	下総	22 小御門小学校	●	●	●		プール開放期間：8/4日
		23 名木小学校	●	●	—		
		24 高岡小学校	●	●	—		
大栄	25 大須賀小学校	●	●	—			
	26 桜田小学校	●	●	—			
	27 前林小学校	●	●	—			
	28 津富浦小学校	●	●	—			
	29 川上小学校	●	●	—			
合計		24校	29校	3校	2校		

地区	名称	学校開放状況			その他	備考
		運動場	体育館	プール		
タニウー	1 西中学校	●	●	—	○	武道場
	2 中台中学校	●	●	—		
	3 吾妻中学校	●	●	—		
	4 玉造中学校	●	●	—		
成田	5 成田中学校	●	●	—		
遠山	6 遠山中学校	●	●	—		
久住	7 久住中学校	●	●	—		
下総	8 下総中学校	●	●	—		
大栄	9 大栄中学校	●	●	—		
合計		3校	9校	0校	2校	

※運動場及びその他の空欄は年間利用者数が0人となっています

※プールの開放時間は午前10時から正午・午後1時から午後3時

図表 校庭・体育館開放時間

区分	施設名	開放時間
土・日曜日、祝祭日 及び学校の休業日	校庭	午前9時～午後5時
	体育館	午前9時～午後9時
平日	校庭	—
	体育館	午後5時～午後9時

④ 小学校・中学校における適正配置後のすがた

本市では、平成20年3月に学校適正配置調査報告書を作成し、今後の小学校・中学校の適正配置の取組みを行っています。

今後、以下の内容で学校の学区の調整・統廃合等を行って行く予定となっています。

		平成23年度			平成26年度			適正配置後				
小学校	1		公津小		1		公津小		1		公津小	
	2	公津地区	公津の杜小		2	公津地区	公津の杜小		2	公津地区	公津の杜小	
	3		平成小		3		平成小		3		平成小	
	4	ニュータウン地区	向台小		4	ニュータウン地区	向台小		4	ニュータウン地区	向台小	
	5		加良部小		5		加良部小		5		加良部小	
	6		橋賀台小		6		橋賀台小		6		橋賀台小	
	7		新山小		7		新山小		7		新山小	
	8		吾妻小		8		吾妻小		8		吾妻小	
	9		玉造小		9		玉造小		9		玉造小	
	10		中台小		10		中台小		10		中台小	
	11		神宮寺小		11		神宮寺小		11		神宮寺小	
	12	成田地区	成田小		12	成田地区	成田小		12	成田地区	成田小	
	13		美郷台小	平成23年度、 中郷小と統合	13		美郷台小		13		美郷台小	
	14	遠山地区	遠山小	統合	14	遠山地区	遠山小	平成26年度東小と統合	14	遠山地区	遠山小	
	15		東小		15		三里塚小		15		三里塚小	
	16		三里塚小		16		本城小		16		本城小	
	17		本城小		17		久住地区	久住小			17	久住地区
	18	久住地区	久住小	平成23年度久住第一小と久住第二小が統合	18	豊住地区	豊住小		18	豊住地区	豊住小	
	19	豊住地区	豊住小		19	八生地区	八生小		19	八生地区	八生小	
	20	八生地区	八生小		20	下総地区	下総小	平成26年度開校 下総地区4校を中学校隣接地へ統合	20	下総地区	下総小	
	21	下総地区	滑河小		21	大栄地区	大須賀小	統合	21	大栄地区	新設小学校	大栄地区5校を統合
	22		小御門小	統合	22		榎田小		22		榎田小	
	23		名木小		23		前林小		23		前林小	
	24		高岡小		24		津富浦小		24		津富浦小	
	25	大栄地区	大須賀小		25	川上小		25	川上小			
	26		榎田小		小計	25校		小計	21校			
	27		前林小									
	28		津富浦小									
	29	川上小										
	小計	29校										
中学校	30	ニュータウン地区	西中	公津の杜地区の新設校・成田中・中台中と学区調整	27	公津地区	公津の杜 新設中学校		22	公津地区	公津の杜 新設中学校	
	31		中台中	平成22年度西中と学区調整	28		西中		23		西中	
	32		吾妻中		29	ニュータウン地区	中台中		24	ニュータウン地区	中台中	
	33		玉造中		30		吾妻中		25		吾妻中	
	34	成田地区	成田中	平成21年度豊住中と統合 西中と学区調整	31		玉造中		26		玉造中	
	35	遠山地区	遠山中		32	成田地区	成田中		27	成田地区	成田中	
	36	久住地区	久住中		33	遠山地区	遠山中		28	遠山地区	遠山中	
	37	下総地区	下総中		34	久住地区	久住中		29	久住地区	久住中	
	38	大栄地区	大栄中		35	下総地区	下総中		30	下総地区	下総中	
		小計	9校		36	大栄地区	大栄中		31	大栄地区	大栄中	
	合計	38校		小計	10校		合計	31校				
				合計	36校							

⑤ コスト状況

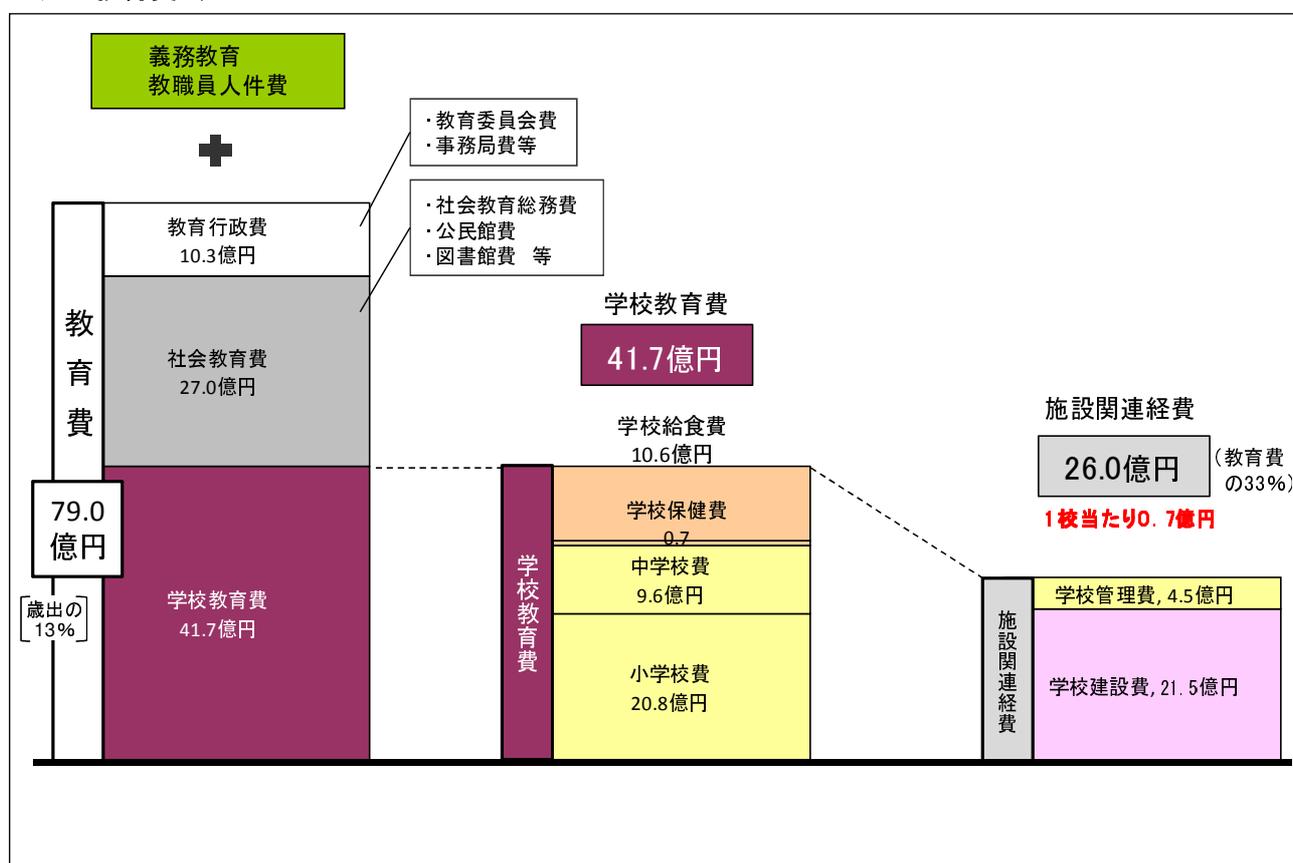
■ 教育費の状況

平成23年度決算による教育費は、約79.0億円（一般会計歳出の約13%）です。内訳は、教育行政費10.3億円、社会教育費27.0億円、学校教育費41.7億円となっています。学校教育費のうち、光熱水費・保守点検費・建設整備費等の施設に関する「施設関連経費」は、約26億円（教育費の約33%）で、1校当たり7千万円となっています。

施設関連経費としては、学校建設費が約21.5億円、学校管理費が約4.5億円となっています。

※本市では、給食センターを整備しているため、学校給食費は施設関連経費の計上から除いています。

図表 教育費（平成23年度）



(資料：平成23年度一般会計決算書)

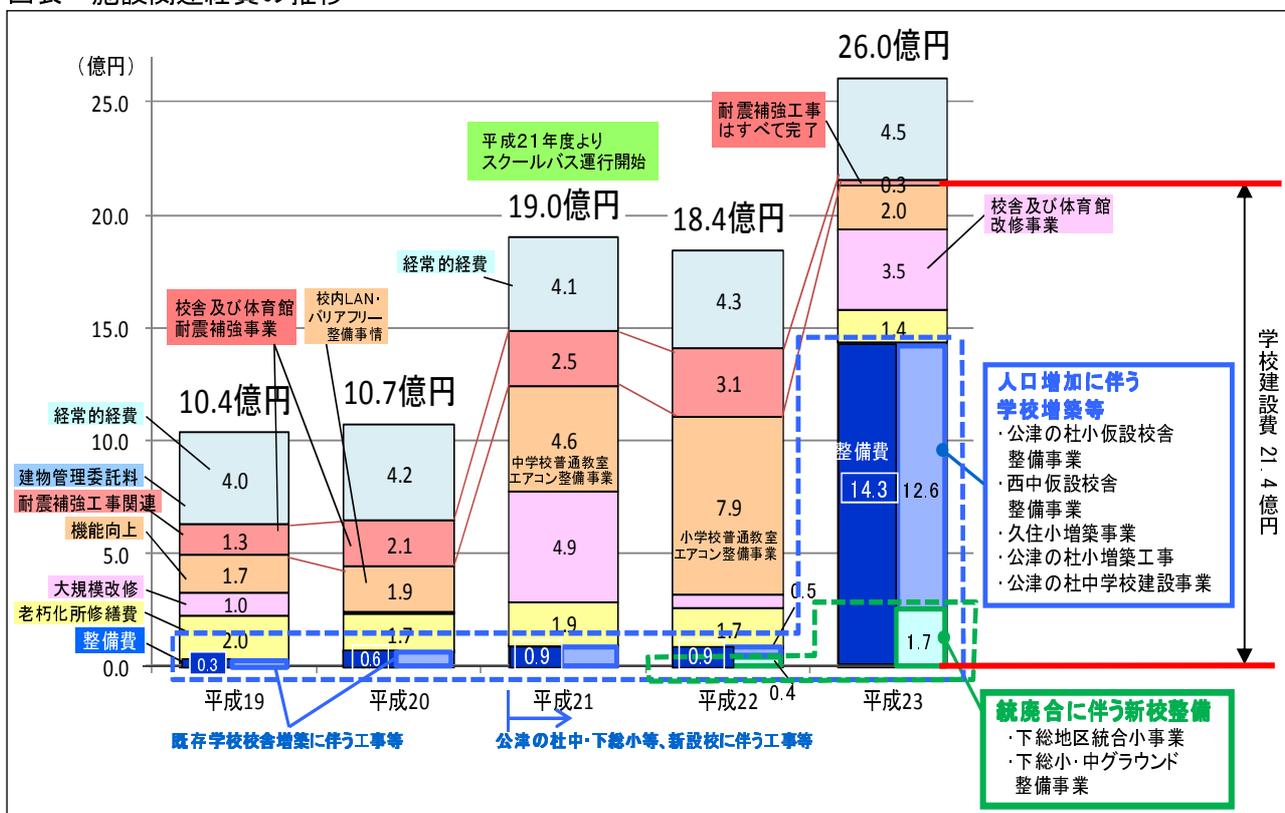
■ 施設関連経費の状況

施設関連経費約26億円のうち学校建設費21.4億円の内訳は、整備費が14.3億円(約55%)、大規模改修費が約3.5億円(約13%)、機能向上(校内LAN整備事業等)が2億円(約8%)となっています。

平成19年度から平成22年度の推移をみると、校舎及び体育館の耐震診断及び耐震補強工事を行い、同時に校舎のバリアフリー整備事業や不足教室に対応する為の仮設校舎の整備を行っています。また、平成21年度より西中分離新設校建設事業(公津の杜中学校建設事業)が実施され、平成22年度以降、公津の杜小学校、久住小学校の増築事業、下総地区統合小学校建設事業が実施されました。

なお、経常的経費(燃料費・光熱水費・修繕料・建物管理委託料)は、毎年4億円から4.5億円とほぼ同程度で推移しています。

図表 施設関連経費の推移



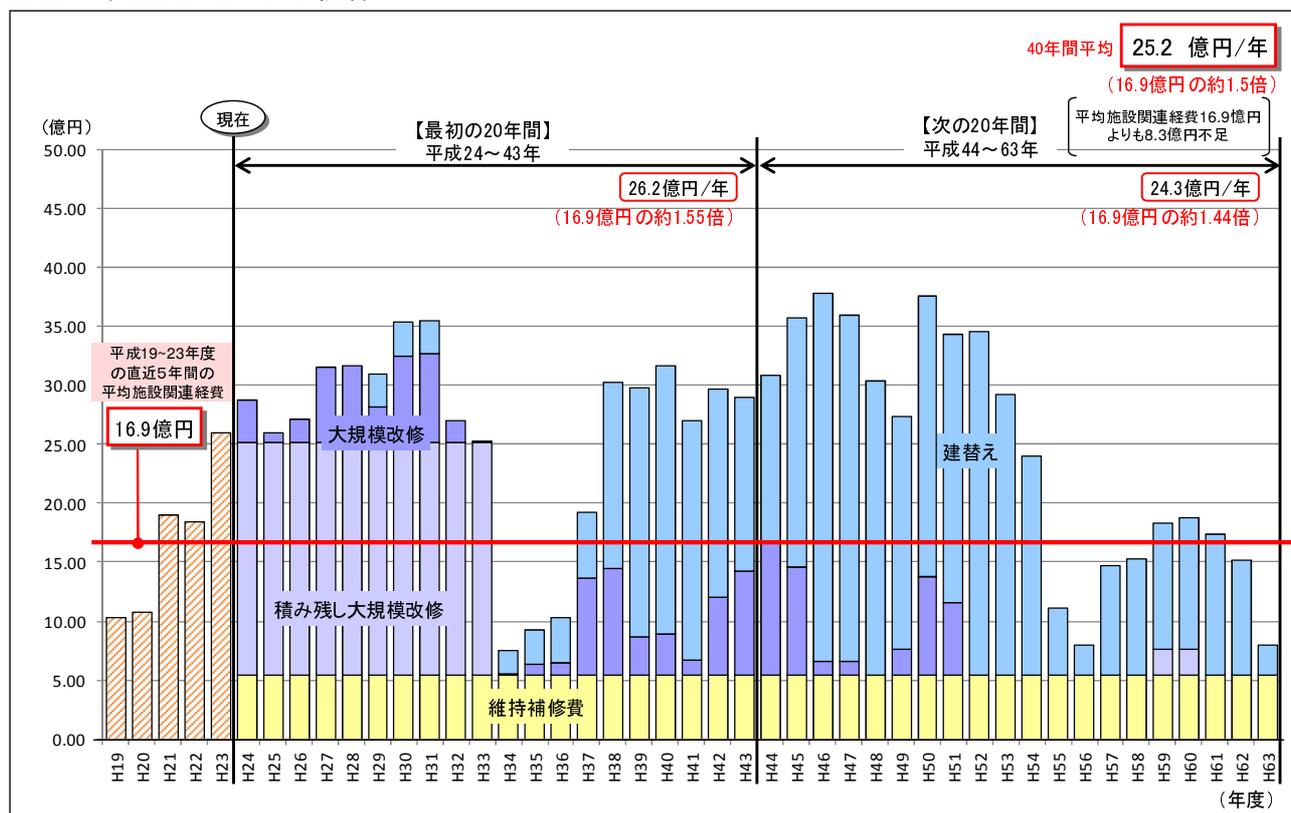
(円)

		平成19	平成20	平成21	平成22	平成23
経常的経費	燃料費	8,000,714	7,179,100	5,997,492	6,593,845	5,574,850
	光熱水費	200,472,689	213,406,784	189,234,646	207,073,741	200,061,480
	修繕料	16,508,915	16,742,390	16,857,367	15,205,991	14,902,562
	建物管理委託料	176,288,430	185,699,652	189,574,939	187,877,521	197,985,254
	スクールバス運行事業費	0	0	8,548,675	12,734,400	27,867,840
	小計	401,270,748	423,027,926	410,213,119	429,485,498	446,391,986
安全対策費	耐震補強事業	134,450,400	208,225,670	247,834,825	305,909,398	25,088,105
機能向上	校内LAN・バリアフリー整備	168,180,419	194,608,454	464,112,203	790,615,557	199,230,913
大規模改修		103,971,000	9,844,800	492,507,486	56,641,650	354,521,865
老朽化所修繕費		200,037,493	171,800,816	190,654,377	174,714,184	144,246,537
土地借上料		1,566,335	1,566,335	1,566,335	1,566,335	1,566,335
整備費		25,742,850	64,728,510	94,149,930	85,122,255	1,433,113,157
合計		1,035,219,245	1,073,802,511	1,901,038,275	1,844,054,877	2,604,158,898

3) 今後 40 年間にかかるコスト試算 (シミュレーション)

今後 40 年間にかかるコストを試算すると、年平均 25.2 億円の費用が必要になります。これは、直近 5 年間の施設関連経費平均約 16.9 億円と比べると、毎年度約 8.3 億円不足する計算になります。特に、学校施設は、昭和 46 年から昭和 61 年に建設が集中しているため、平成 43 (2031) 年以降の建替えのピークに適切に対応していく必要があります。

図表 今後かかるコスト試算



《試算条件》

- a) 前提
- 現状の施設規模・施設内容を維持することを前提としてコスト試算を行う。
 - 施設の統廃合による施設数の増減、および増減築による建物面積の増減については考慮していない。
- b) 条件
- 建築物の耐用年数は 60 年と仮定する。大規模改修は、建設後 30 年で行い、その後 30 年で建替えると仮定する。
 - 建替え及び大規模改修予算は、年度ごとのばらつきを軽減させるために、
 建替え : 3 年間
 大規模改修 : 2 年間 に振り分けて、予算計上する。
 - 平成 22 年度 (2010 年度) 以前に大規模改修の時期を迎えている施設のうち、築 31 年以上 50 年経過した施設については、最初の 10 年間 (平成 23 年度 (2011 年度) から平成 32 年度 (2020 年度) で均等に大規模改修を実施する。

c) 単価

	建替え	大規模改修
学校教育系、子育て支援施設等	33 万円/㎡	17 万円/㎡

4) 今後の検討の視点

- 学校施設は、築30年以上経過する建物が全182棟中81棟、9.5万㎡、全体の約50%を占めており、老朽化が進行しています。既に大規模改修等の老朽化対策を実施している学校もありますが、統合校の整備や、公津、ニュータウン地区等の児童生徒数増加に伴うプレハブ校舎等の増築を優先して実施してきたため、現状は、老朽化対策が積み残されている状況です。今後かかるコストを試算すると、現状の学校施設にかけているコスト（年間16.9億円/年）を大きく上回る費用が必要と予測されており、今後は、優先順位付け・等を行い、財政状況を勘案した実施可能な改修計画等を検討することが必要です。
- 人口が減少する地区の学校は、平均2,794㎡で全てが4,000㎡未満の小規模な学校です。人口が増加する地区の学校は、平均5,266㎡となっています。人口が増加している公津地区では、児童生徒数も増加し、プレハブ校舎等の増築を行っている一方、隣接するニュータウン地区では、児童生徒数の減少が始まり、小規模校となっている学校もあります。学校等の規模を勘案し、今後は、スクールバス等を含め、通学圏の柔軟な見直しを検討する必要があります。
- 中郷地区、久住地区、豊住地区、遠山地区、下総地区及び大栄地区では、児童生徒数の減少により統廃合を実施・計画しています。今後、統廃合を実施した学校跡地の活用については、平成24年度に策定した基本方針を基に、早急に活用検討し、現状の財政状況を踏まえ、効率的・効果的な活用を行う必要があります。
- 統廃合を計画・実施している学校以外では、児童生徒数の減少に伴い、従来の普通教室を少人数学習室や多目的教室等新たな機能に転用し活用しています。今後、更に児童生徒数が減少する学校もあり、学校ごとの将来推計を勘案しながら、近隣公共施設の統合や新たな行政ニーズへの対応など、地域に身近な施設である学校施設の有効活用を検討していく必要があります。
- 学校施設は、市の保有する公共施設（公用・公共用財産）の約47%と最も大きな割合を占めています。そのため、学校施設での環境負荷低減への取り組みは、ランニングコストを圧縮し、将来財政負担の軽減をを図る上でも効果的な対策と考えられます。そのため、今までに大規模改修で行っている高効率照明器具の導入や高効率空調設備への更新等を行うと共に、屋上・外壁の断熱化やペアガラスの導入等を推進し、より効果的な環境負荷低減へ取り組むことが考えられます。また、防災機能の向上を図るなど、地域の安心・安全を担保する地域にとってかけがえのない施設として機能していくことも望まれます。